ジャカランダの屋外での生育

濱谷修一・世羅徹哉

ジャカランダ（Jacaranda mimosifolia D.Don）はブラジル南部原産の落葉高木で、展葉前に樹冠を覆いつくすように紫色の花を咲かせ、世界三大花木に数えられている。

広島市佐伯区にジャカランダ並木を作り、区の活性化を図りたいという方から、屋外での試験栽培の依頼があった。活動の趣旨が行政課題に合うことから依頼を受けることとし、平成22年10月に10鉢を譲り受け、植物公園内で調査を開始した。

これらの株は、受領時には直径30cmの鉢に植えられ、幹の最大直径約４cm、樹高約1.5mであった。

受領後、23年４月までは育苗温室（最低５℃）内で栽培した。春までの間は、鉢土の表面が十分に乾いたのを確認してから水やりを行った。ごく自然に落葉し、春になって新葉の展開が確認されたので、４月下旬に屋外の東向き斜面に４株、西向き斜面に４株植え付けた。２株は予備として鉢植えのまま管理を続けた。

定植した８株はいずれも順調に生育を続け（写真1,2）、降霜後に葉が褐変、落葉した。その後、特に防寒対策を施さずに栽培を続けたところ、目視による観察では、24年１月末頃まで枝は生存していたと思われたが、３月になると明らかに枝枯れの様相を示し始めた。全８株ともに、24年４月以降の芽吹きが確認されず枯死したものと思われたが、その後も撤去せずに様子を見ていたところ、６月頃になって東向き斜面の１株、西向き斜面の２株の地際から新芽が発生し、12月には15～30cmの樹高となった。また、その他の６株は芽ぶきが無く、枯死したと判断された（写真３）

なお、この間の温度の推移については、本誌の園内気象記録を参照していただきたいが、例年、最低気温は氷点下４～６℃である。

広島近辺でジャカランダを開花させるための条件については十分な情報が無いが、本来の性質からは、十分に成長した枝が凍害を受けずに春の花芽分化期を迎える必要があると考えられる。したがって、今回のように地植えし、防寒を施さない場合には、枯死を免れる個体があったとしても枝枯れは免れないために開花には至らず、一面に花を咲かせる並木にまで成長する可能性はほとんどないことが示唆された。

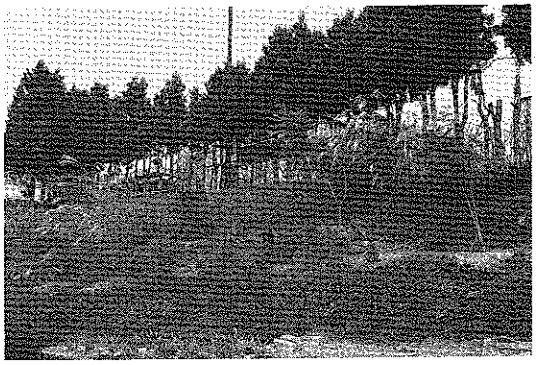

写真１．東向き斜面でのジャカランダの生育の様子
（平成23年11月）

写真２．西向き斜面でのジャカランダの生育の様子
（平成23年９月）

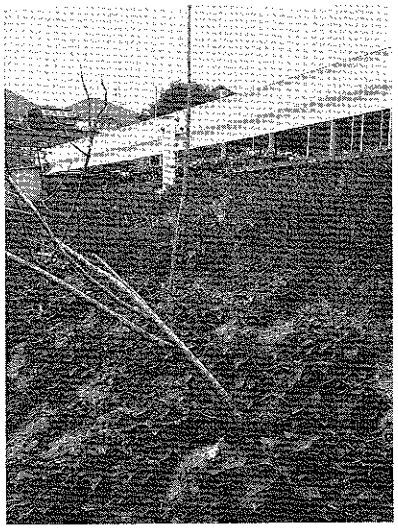

写真３．枯れたジャカランダの株の様子
（平成24年10月）